

2015年  
3月

No.197

# さざなみ

〒520-2141  
大津市大江6丁目23-24

**さざなみネット**  
(金融労連・全国金融産業労働組合滋賀分会)  
TEL・FAX 077-545-5154



東日本大震災、福島第1原発事故から4年目の「3.11」を目前にした8日、大津市膳所公園と生涯学習センターで「原発のない社会へ2015びわこ集会」が開かれ、好天に恵まれ約1000人が「すべての原発を廃炉へ」と運動の前進を誓い合いました。さざなみネット・滋賀銀行従業員組合・先輩組合員12人が参加しました。

この集会は労働組合や住民団体など約100団体が「原発のない社会」を実現するため1日だけ共同を行う画期的な取り組みで、2012年から4度目になります。（「当日のプログラム」次頁）

ステージでは、茨城県から駆け付けた元東海村長の上達也さんが、「滋賀は関西・日本の将来を守るカナメ。びわこを抱える宿命です。がんばって」と運動を熱く激励。原発立地県のさよなら原発福井県集会共同代表の山本富士夫さんが、「安全協定ではなく規制協定を」と再稼働阻止への連帯のあいさつ。基調報告した弁護士・井戸謙一さんは、原発の新規制基準の欠陥を指摘し、

「過酷事故を前提に再稼働させようとしている」「1基でも再稼働を許せば弾みがつくことに」と運動のさらなる前進を呼びかけました。

連帯のあいさつをした平尾道雄米原市長は「『原発いらない』を実現させないと本当の意味で未来をつくることができない」と述べ、会場から大きな拍手がわきました。

「福島原発事故を忘れることなく、被災地の人々と共に、原発のない社会を」「放射能からびわ湖を守り、私たちと子々孫々の生活を守りぬきましょう」との集会アピールを意気高く採択しました。（「集会アピール」次頁）

最後に、参加者は「高浜原発再稼働NO!」の紙を掲げながら全員でシュプレヒコールをし、福島原発事故を忘れることなく、被災地の人々と共に、原発のない社会をつくりあげる決意を固めました。会場内には各団体のブースが並び、大賑わい。集会後、参加者は関西電力滋賀支店前を通りパルコ前までデモ行進をしました。



ひな人形 岩波 美智子さん 画

忘れない フクシマ  
まもりたい いのちとびわ湖

高浜・大飯原発再稼働反対

**原発のない社会へ 2015びわこ集会**

日時 2015年3月8日（日）  
10時より 15時デモ

場所 膳所公園及び大津市生涯学習センターホールほか  
(大津市本丸町E番50号 電話：077-527-0020 公民館駐車場は取りません)

【主な内容】 東海大津行(台座等)の都合は中止。当日下記プログラム  
生涯学習センター（ホール）10時30分～12時 村上達也さん(元東海村長)講演会 (学研館 プレ企画)  
膳所公園 (公園内) 10時より フリーマーケット、ブース企画  
(野外ステージ) 10時ライブ、リレートーク 13時30分 集会 15時 デモ出発

原発のない社会へ びわこ集会実行委員会 参加費500円 <http://biwako2015.shiga-saku.net>  
(連絡先 080-5713-8629 (福村) 090-9874-3266 (野口) email:gkooe@niconomi.net)



## 原発のない社会へ 2015びわこ集会 当日のプログラム

### 講演会

- ・「脱原発でびわ湖を、関西を守ろう！」  
村上達也さん（脱原発を目指す首長会議  
世話人・元東海村村長）

### 展示など企画

- ・資料展示・脱原発上映会・子どもコーナー
- ・こだわりマーケット・ブース企画
- ・ライブとリレートーク

### びわこ集会

- ・呼びかけ人代表あいさつ
- ・スピーチ 村上達也さん（元東海村村長）
- ・基調報告 井戸謙一さん（弁護士）
- ・原発立地地元あいさつ 山本富士夫さん  
（さよなら原発福井県集会2015共同代表）
- ・連帯あいさつ  
平尾道雄さん（米原市長）  
藤澤直広さん（日野町長）  
村西俊雄さん（元愛荘町長）
- ・メッセージ紹介 滋賀県知事・湖南市長
- ・各界からのごあいさつ  
藤井明範さん（滋賀県保険医協会理事）  
横田明典さん（日本基督教団滋賀地区議長）  
三井寺 メッセージ紹介
- ・県内避難者の訴え 佐藤勝十志さん
- ・集会アピール採択
- ・デモ・パレード 大津パルコ前まで

## 忘れない フクシマ まもりたい いのちと びわ湖 原発のない社会へ 2015びわこ集会 アピール

福島第一原発事故から4年が経ちましたが、事故収束の兆しは進まず、事故の収束の見通しも立っていません。今後も大気中に放射性物質が放出され続け、高濃度の汚染水が漏れ出しています。放出される放射性物質は、地球規模で生活圏を包囲にさらしています。自ら戻れない十数万人の避難者や、他県避難先にもさらされる被災者は、経済的・精神的に疲弊しきっています。事故の収束作業に従事する労働者は悲惨な労働環境の下で、過酷な被ばく労働を強いられています。被災地では、早期復元が見えなかった子どもたちや健康被害を訴える人々の数は増え続けています。今後とも被害がいつまで、どこまで広がるか予測できず、多くの人命が将来の危ない不安の中に置かれています。

原発再稼働に反対する国民の声は日増しに大きくなり、今や新聞の世論調査でも圧倒的多数が、原発をなくすことを求めています。将来の再稼働だけでなく、即時停止を求める声も大きく伸びています。昨年5月、福井地裁は大飯3号機と4号機の運転を許してはならないとの画期的な判決を下しました。判決は、原発事故によって人格権が侵害される危険性が万が一にでもあれば、原発の差し止めが認められることや、人の生存に関わる権利と電気の高い・低いを一緒に調べることは法的に許されないことなど、再稼働差し止めの根拠を明確に示しました。

それにもかかわらず、安倍政権は国民の声に耳を貸さず、新エネルギー基本計画で原発をベースロード電源に位置付け、原発再稼働と原発輸出、そして新たな原発建設を進めています。これは「同じ苦しみと涙にも関わらずに泣かない」という福島県被災者の怒いを含みに行方です。原発推進派は「原発がないと電気が上がらぬ」と言いますが、原発のコスト高が明らかになり、そうした口実も破たんしました。もはや無意味で強行突進する構えです。関西電力は原発の安全性はそっちのけで、原発再稼働の遅れを理由に電料料金を再度値上げすると市民を脅しています。

昨年11月に大津地裁は、原子力規制委員会が高浜・大飯原発の再稼働を早急に認めるとは考えられないから、差し止めは緊急性がないと判断しました。その判断をあさうように原子力規制委員会は12月に高浜原発を含むとする審査会を開き、2月に審査会が決定し、今日では再稼働への地元同意の取得に移っています。滋賀県の一部は高浜・大飯原発から30キロ圏内にあり、重大事故が起れば、避難はほとんど不可能です。さらにびわ湖の周辺には放射性物質が漏れ、処理にわたって湖底の底層が汚染され、土壌も広範囲に汚染されるため、西日本も安心して住めなくなります。滋賀県政は、現状では高浜原発の再稼働を容認できないとしています。今後とも再稼働反対を強く求めます。

今日、ここに集う私たちは、福島原発事故を忘れることなく、被災地の人々と共に、原発のない社会をつくりあげる決意を新たにしています。圧倒的多数の原発ゼロを求める国民世論によって原発推進勢力を包囲、孤立させ、自衛隊と手を組んで、高浜・大飯原発再稼働を許さず、放射能からびわ湖を守り、私たちと子々孫々の生活を守りぬきましょう。

高浜原発、大飯原発の再稼働反対。  
すべての原発再稼働反対。新原発反対。  
原発輸出をやめさせよう。  
すべての原発を廃炉（はいろ）へ。

2015年3月8日

原発のない社会へ 2015びわこ集会 参加者一同



デモ・パレードに出発

## ひととき

我が家から東に伊吹山が見える。

「伊吹山に3回雪が降ると麓に雪が降る」と言われるなど、麓の住民は年中伊吹山を眺め季節の變化を感じ生活している。今の関心はいっつ伊吹山から雪がなくなるかだ。

山口誓子の句を思い出す。

伊吹嶽 残雪天に 離れ去る 誓子

誓子は「自選自解山口誓子句集」で次のように記している。

「伊吹山は、その厳然たる山容から「伊吹嶽」と言っべきだ。……（省略）……雪が積もれば、全山真白になった。その雪嶺の伊吹山を、私は、殆ど毎日のように眺めた。

春になると、その雪は、麓から消えはじめ、上のほうの雪がじりじり消えてなくなった。ああ、伊吹の頂に雪が残っている、そう思って、私は、伊吹山を見つづけた。

或る日、その残雪が見えなくなった。私には、その残雪が伊吹山から、飛んで、離れて、天に去ったように思われた。消えてなくなったとは思われなかったのだ。伊吹の残雪は、かぐや姫の真似をして昇天したのだ。」

天候がよく時間があれば、田の小道をウォーキングしている。伊吹山の様子を眺め、田に植えられた麦の芽の一面の緑から暖かい日には雲雀がピーチク鳴き出した。土手に出てきた「土筆」、畦の「仏の座」の小さなピンク色の花、「犬のスクリ」の青い花、満開の梅の花、膨らんできた桜の蕾、木々の芽の膨らみなど自然を満喫し、清々しい「ひととき」を過ごしている。

(山崎)

